

令和 5 年 11 月 7 日

教育課程検討委員会

本学における DX による教育の質的向上に関する取組みについて

1. 目的

本学において DX を積極的に取り入れることにより、学修者本位の学修を一層推進するとともに、教員と学生および学生間のコミュニケーションの促進を図り、大学教育の質的向上を目指す。

2. 取組内容

(1) 現行システムを活用した全学的な取組

A. 学内ポータルサイトの学修支援システムの機能である「学生カルテ」により、学生の習熟度のデータ（成績評価や GPA 等）を教員が把握し、当該データをもとに、以下の取組を実施する。

- a. 学生の学修状況に応じた科目履修等の学修計画に係るアドバイス等を実施する。
- b. 学生の成績データ等を可視化するとともに、当該データに基づき、大学全体の教育課程の編成等における改善策について検討する。

(2) ICT 機器等を活用した教育手法の具体化

A. Wi-Fi 環境において学修管理システム（LMS）を利用して授業教材を効率的に配布する。

B. Web 会議サービスを用いることで、投影機器が無くても PC など手持ちの端末機器でプレゼン資料を共有する。

C. Web アンケートサービスを利用した効率的なアンケート回答情報や Web テストの問題配布と解答収集を実施する。適宜、自動採点や学生へのフィードバック機能を活用することで教育効果を高める。

(3) 全学的な体制整備

A. 教務システム、学修管理システム（LMS）および出席管理システム等の連携の検討（システム改修または更改）

B. 学修ポートフォリオシステムの導入および運用体制構築を検討する。

3. 取組の目標と目指す成果

(1) 取組の目標

A. 教育課程の編成等の見直し

得られたデータ（成績評価や GPA 等）を活用し、カリキュラム・ポリシーに基づき教育課程の編成や科目等の不断の見直しを実施する。

B. 学生指導

a. 学生に対する科目履修等の学修計画に係るアドバイスを複数回（年 2 回以上）実施する。

b. 学生の学修計画について、より学生個人に最適なものとなるようアドバイス（学修指導・キャリア指導等）を行う。

C. 授業改善 F D 研修会の実施

I C T 機器等の授業活用事例等について、教育改善企画運営委員会に諮り必要に応じて F D 研修会を開催する。

D. 全学的な体制整備

学内システム再構築にあたり、実施項目の優先順位を考慮した投資計画を策定し実現を目指す。

a. 現行システムの課題等の洗出しを実施する。

b. 改修費用と更改費用の比較と投資効果を検討する。

c. 投資予算について学校法人と協議を行う。

(2) 目指す成果

A. 学生のニーズや社会情勢等に合致した魅力ある教育課程の編成等を実現する。

B. 学生の成績評価について、不可・放棄を減少させ、単位取得率を 90%以上とする。

C. 学生指導の充実化により、学生の希望する進路の実現を目指す。

D. I C T 機器等を活用した教育手法の改善を図るとともに、教員と学生及び学生間のコミュニケーションを深め学びの質の向上を目指す。

E. 学内のシステム相互の体系的な連携を図り、学務事務の効率的な遂行が可能となる体制を目指す。

以 上